

第3回ユニバーサルビレッジ国際会議（10月6日～8日） におけるマサチューセッツ工科大学正木一郎博士の 冒頭スピーチの一部

世界の人々の心を捉えている戦争か、事故か、テロによる核物質の大爆発が、人類と地球環境を壊滅させるという恐怖感を取り除くためにも、これらの問題にたいする唯一の解決策である比嘉博士の「微生物による元素転換」を科学的に立証する「新しい理論」を立てることに私は努めているところです。放射性物質を微生物によって元素転換することができるという「比嘉理論」に従えば、有害な放射性物質を無害な物質に変えることができます。さらに、2013年に、全地球生態系の破綻を抜本的に解決する目的で始めた「全地球生態の法則」も、比嘉博士や多くの友人の助けを得て、その全貌が明らかになりました。この全地球生態系の法則についても、本の中で発表する準備をしているところです。

NPO 緑の会

特定非営利
活動法人
NPO緑の会
取手市小文間
3838-1
TEL 0297-
72-8791



写真左から、比嘉照夫教授、正木一郎博士、新谷正樹氏、奥本秀一氏

●この国際会議の共催団体は、IEEE（アイ・トリプル・イー、IEEEは人類社会に有益な技術革新の前進に貢献する世界最大の専門家組織で、160カ国以上に約40万人の会員がいる。）ITSS（高度道路交通システム学会）、MIT（マサチューセッツ工科大学）、名古屋大学、北京航空航天大学です。

正木一郎博士の略歴 早稲田大学卒業後、川崎重工でFAロボット用画像センサーの研究に従事。1981～1993年、デトロイトのGeneral Motors社の研究所で自動車とテレビを融合させたインテリジェント・クルーズ・コントロールの研究を進めるかたわら、IEEEにインテリジェント・ヴィークルの国際会議を設置。1994年マサチューセッツ工科大学に招聘（しょうへい）。現在、MIT同ITS研究センター所長。

IEEE副会長などを勤め、米国のみならず日本の官公庁、民間企業の顧問、コンサルタント等多数。

●我が子が
ある。頃
ある。頃
増産させ
は食料を
EM技術
も可能だ、
EM技術
地を改善
すること
する。こと
も可能だ、
EM技術
は食料を
増産させ
る技術で
ある。頃
●我が子が
ある。頃

大村 智
Satoshi Oomura

自然が
答えを
持っている

「ノーベル生理学・医学賞」受賞記念!
最先端科学者が自身の原点を綴った感動のエッセー集!
ストックホルムでの受賞講演を
単行本初収録!!

徳文堂刊 定価：単行本600円・税別

この本の中で、大村先生は、EM技術のことについて次のように述べている。

●先般、書店で目に留まり買っていただいた『微生物が文明を救う』（比嘉照夫・渡部昇一 共著／クレスト社）を子供の頃の農業と今日の農業とを比較しながら、通勤の車中で一気に読み終えた。

●化学肥料や農薬に頼る現在の一般的な農業に対して、微生物を利用するEM技術を導入するということだ。化学肥料に頼る農業は土壌を疲弊させ、田んぼに埋められた糞は容易に土壌化しない。EM技術とは、そのような土壌をEMによって改良することで食料を増産させる技術であり、また、もともとやせている土地を改善すること

●化学肥料を作るには膨大なエネルギーを必要とする。そのことは巡りめぐって環境破壊の元凶にもなる。

●一農学者によって、化学肥料を使う以前の農業の中にあつた人類の知恵が歴史から抜け出し、再び役立とうとしているのである。

●このEM技術の原形とも言うべき堆肥作りを手伝った山から木の葉をかき集め、糞を集めて下肥を撒き、微生物を繁殖させて（発酵させて）作ったものだ。これを利用すれば、土壌を絶えず生きた形で使うことができる。この原理を応用し、いわば堆肥作りを効果的に行うために役立つ微生物を混ぜたものが、EMである。

著書「自然が答えを持っている。」
ノーベル物理学・医学賞の
大村智（北里大学特別栄誉教授）が
EM技術について人類の知恵と述べて評価

ネットワークフェア2016 生憎の雨となり体育館で出店すること

11/19(土)



藤井市長のオープニング挨拶

楽しみにしていた恒例の「ネットワークフェア」は生憎の雨に見舞われ、藤代スポーツセンターの運動場から体育館に変更になりました。多くのイベントも縮小され、気温も低く、お客様もかなり少ない残念なことでした。

そんな中で、EM商品や野菜、大判焼きの販売に努めました。大判焼きは、外のテントで焼き上げ、体育館の中で販売するやり方になってしまいました。協力していただいた金本農園、知久農園、椎名農園さんの野菜はかなり値段を下げるなどして、時には会員が売り歩いて頑張り、何とか7割程度を販売しました。

米のとき汁発酵液の作り方実演には、小島さん等が担当し、時折お客様が立ち寄って熱心に聞き入っていました。



忘年会を開催 賑やかに「四季の杜」で

12/5(月)

会員の他、堆肥化作業のシルバーさん、EM生活の水野氏も加わり、恒川理事長のねぎらいの挨拶の後、懇親会が始まり、しりとりクイズやじゃんけん大会などで楽しく賑やかなひと時を過ごしました。また、どうぞ自慢の会員も多く、それぞれの持ち歌に掛け声が響きわたり大いに盛り上がった一夜となりました。



編集後記 ノーベル賞受賞者の大村教授がEM技術を大いに評価する本を発表されたこと、また世界的に有名な正木教授が国際会議のオープニングスピーチで比嘉教授の名前を上げて評価し、EM効果を科学的に立証する作業を進めていると発表したことは、私たちにとって、大いに心強く久しく待望していたことではないでしょうか。

KF